

## 2 学期終業式 校長講話

コロナウイルスという得体のしれないウイルスとの闘いは2年が過ぎようとしています。まだウイルスのことなど考えもつかなかった2年前の2学期終業式では、その年の10月に起こった台風19号の甚大な被害に際し、本校でも何人かの生徒がボランティア活動に自発的に参加したり、自分のできること自分なりに考え行動する生徒がいたことをとても嬉しく感じたという話をしました。今年も、困っている方を助けてくれたという感謝のお電話を頂くこともあり、皆さんが温かい心で行動に表わしている姿をとても嬉しく感じています。この2年間、本当に必要なものや自分にとって大切なものがわかり、1日を大切に過ごしたい思いや学校に通うことのありがたさも感じる2年間になっています。コロナ禍2年目となった令和3年、皆さんは、どんな1年間の振り返りができますか。

さて、皆さんは「承認欲求」という言葉を耳にしたことはありますか？承認欲求とは「他人から認められたい。自分を価値ある存在として認めたい」という欲求のことです。社会生活において、他人から認められたい、自分を理解して欲しいという思いは本来小さい子供から大人まで誰でも持ち合わせている感情です。こんな混沌とした世の中では特に、満足に動けない、活躍の場がない、など、自分自身の生活に満足できないと、この承認欲求が強くなるのだなあと感じることがいくつかありました。自分の自信のなさや満足感が得られないゆえに、他人から褒められることや認められることを求めてしまいます。最近はSNSでエゴサーチにより体調を崩す例も見聞きします。また、他人を批判したり攻撃することで自分は優<sup>まさ</sup>っているという感情を得ている現状も見受けられます。

この承認欲求を分析すると、2つのレベルに分かれることがわかります。1つ目は「他者承認」という、他人からの尊敬や評価を受けたいという低いレベルの欲求、そして、2つ目は「自己承認」という、自分の能力の獲得で満たされていく高いレベルの欲求です。

自分は生きている、自分は社会に・学校に、必要な存在なんだと感じられるようになるには、自分の能力や技術を磨きその力を社会で発揮したいと思うことが必要になります。ここまで話し、皆さんに聞きたいことは、コロナ禍の2年間に、そして今年1年間、何を考えて、どう考え行動してきましたかということです。

ただ息をしているだけのつまらない1日を、つまらない1年間を過ごしてしまったなと感じる人はいませんか。そんな生活からはぜひ脱却したいですね。この先もまだ感染予防のための苦しい生活が続くことになっても、だから何もしなくてもいいということはないのです。皆さんはただ一度しかない16歳から18歳を、今生きているのです。

2学期の皆さんの生活を見てみると、一生けんめい頑張っているという生徒がいる反面、こんな時代なんだからやらなくてもいいやつまらないなと諦め半分でダラダラと時の過ぎるのを待っているような、そんな姿勢が見える人もいました。欠席の多い人、遅刻、早退が目立つ人、手遅れにならないうちに自分の心持を変えてみましょう。さまざまな悩みがある人もいます、しかし悩んでいるからと何もしなくてもいいことではありません。違った角度や違った目線で物事を捉えて、そのことだけにとらわれすぎずに、挑戦をくりかえしていくことで自己承認へのきっかけを探したいですね。

2022年は、寅年です。寅年は、「冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力にあふれ、華々しく生まれる年」というイメージがあるようです。牛からトラへの転換、心持も変えたいものです。

感染状況は比較的に収まっておりますが、ウイルスも何とかして生き延びようと変異しており、楽観はできません。ただ感染状況が落ち着いているのは、皆さんの努力の成果です。引き続き感染対策を怠らず、休み中も毎日の健康観察をお願いします。それではご家族と穏やかに良いお年をお迎えください。1月6日、元気にお会いしましょう。